

令和5年度
総合型選抜入試1期入学試験

基礎学力試験問題
(小論文)

1. 試験時間は、60分です。
2. 問題は、この冊子の1～5ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

新型コロナウイルスによって我々の日常生活は大きく変わった。多くの場合、そのマイナス面が取り沙汰されるが、医療や教育、労働などの現場では、コロナ禍以前の日本が抱えていた問題が浮き彫りにされたことで、改革の推進力となった面もある。まだ先の未来だと感じていた VUCA^{注1)} の時代が急激に訪れたことで、これまで「非常識」だと考えられていたことが「常識」へと変貌を遂げている。例えば、労働の面ではテレワークの推進、教育の現場では ICT (Information and Communication Technology) の導入が挙げられる。医療の現場では電話およびオンライン診療が広く実施されるようになり、それに伴いかかりつけ医の重要性が認識されている。

注1) VUCA (ブーカ) とは、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味している。

4 つの単語 (Volatility: 変動性・Uncertainty: 不確実性・Complexity: 複雑性・Ambiguity: 曖昧性) の頭文字をとった造語。

問題 次の問いに答えなさい。

問1 かかりつけ医とは「何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近にいて頼りになる総合的な能力を有する医師」である。2020 年 7 月に日本医師会が実施した調査では、かかりつけ医がいる人は全体の 55.2% であり、「(今現在) かかりつけ医はいないが、いるとよいと思う」と答えた人は、全ての年代において 2017 年調査時よりも増加していた。

- 1) 図1の左図は「年代別に比較した、かかりつけ医の有無」を示している。20 歳代でかかりつけ医が「いる」と回答した割合の **3 倍以上** が「いる」と回答した年代はどれか。当てはまる年代**すべて**に「○」をつけなさい。

20 歳代 ・ 30 歳代 ・ 40 歳代 ・ 50 歳代 ・ 60 歳代 ・ 70 歳代以上

- 2) 表1に回答者の年齢別人数を示す。50 歳代の回答者のうち何人が、今現在かかりつけ医が**いない状態**であるか。小数第1位を四捨五入して、整数で求めなさい。

(_____) 人

- 3) 図1の右図は「かかりつけ医はいないが、いるとよいと思う」人の割合について、2017 年調査時と 2020 年調査時の比較を示している。2020 年調査時において、2017 年調査時に比べ「かかりつけ医はいないが、いるとよいと思う」と回答する人の割合が最も増加した年代はどれか。当てはまる年代に「○」をつけなさい。

20 歳代 ・ 30 歳代 ・ 40 歳代 ・ 50 歳代 ・ 60 歳代 ・ 70 歳代以上

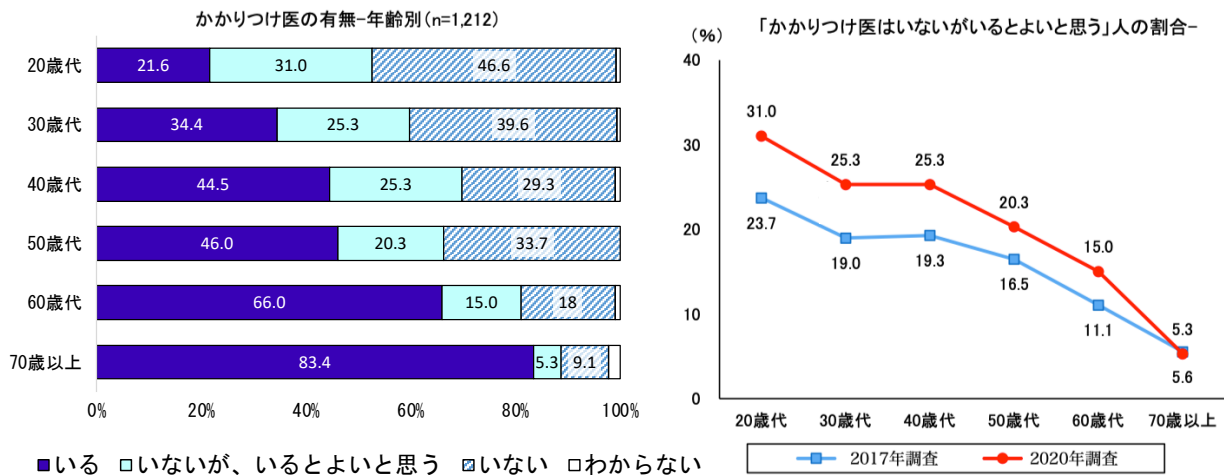


図1 かかりつけ医の有無

表1 回答者の年齢別人数

【年齢】	人数	割合
29歳以下	116	9.6
30～39歳	154	12.7
40～49歳	229	18.9
50～59歳	187	15.4
60～69歳	206	17.0
70歳以上	320	26.4
総数	1,212	100.0

出典：公益社団法人 日本医師会 「第7回 日本の医療に関する意識調査」 令和2年10月7日公表
 *出題の都合上、部分的に省略・改変し図・表を作成してある。

問2 電話・オンライン診療^{注2)}とは「医師と患者間において、電話や情報通信機器を通して、患者の診察および診断を行い、診断結果の伝達や処方等の診療行為をリアルタイムにより行う行為」である。新型コロナウイルス感染症への不安から受診を控えていた患者が多い中、2020年4月からは時限的・特例的ではあるが、医師が医学的に可能であると判断した場合は、初診^{注3)}から電話やオンラインでの診断や処方を行うことが可能になった。

注2) オンライン診療とは、スマートフォンやパソコンを使用し、インターネット経由でテレビ電話や病院独自のアプリケーションを用いて行う診療行為のこと。

注3) その医療機関に初めて受診した場合および2度目以降であっても新たな症状・疾患について受診する場合は初診となる。

- 1) 図2に「電話・オンライン診療が実施できると登録した医療機関数および初診から実施できると登録した医療機関数」を示す。2020年4月と比べ、2020年5月には電話・オンライン診療が実施できると登録した医療機関数は何倍になったか。小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めなさい。

() 倍

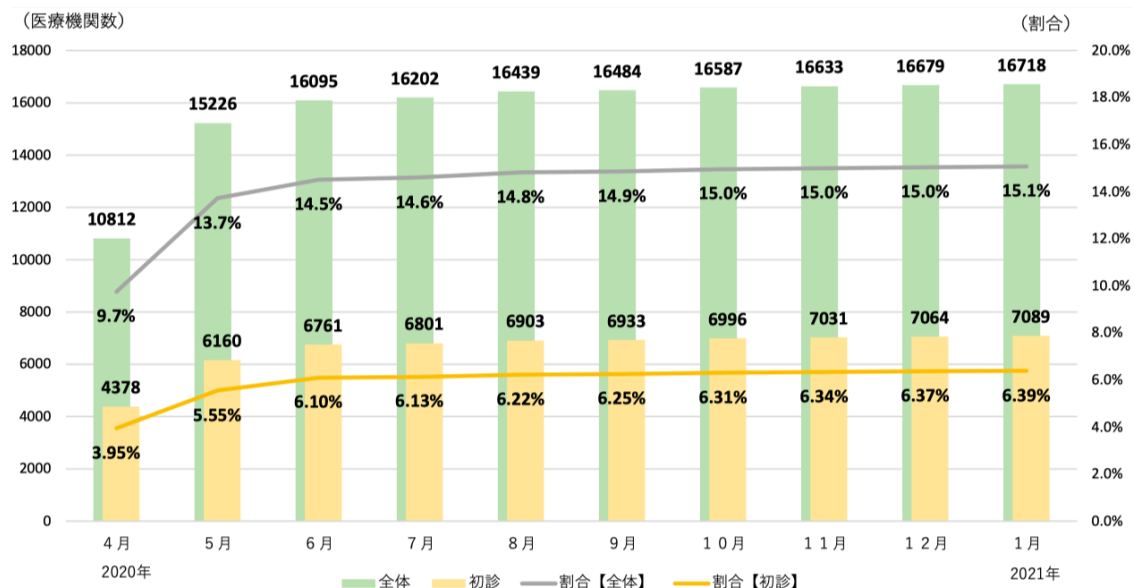


図2 電話・オンライン診療が実施できると登録した医療機関数および初診から実施できると登録した医療機関数

出典：厚生労働省 「令和3年度版 厚生労働白書「新型コロナウイルス感染症と社会保障」 令和3年7月公表
 ＊出題の都合上、部分的に省略・改変し図を作成してある。

- 2) 図3に「初診からの電話およびオンライン診療の件数（電話・オンライン診療別）」を示す。
 次の1～5の文はグラフから読み取れる内容の説明である。誤っている説明文の番号すべてに「○」をつけなさい。

1. 初診で電話診療を希望する人は60歳以上の人が多かった。
2. 2020年4月に比べて、すべての月において初診をオンライン診療で受ける人が増加した。
3. 初診では電話診療を受けた人がオンライン診療を受けた人よりも多かった。
4. 2020年6月は病気になる人が少なかった。
5. 2020年5月には初診でオンライン診療を利用した人が前月に比べ2倍以上になった。

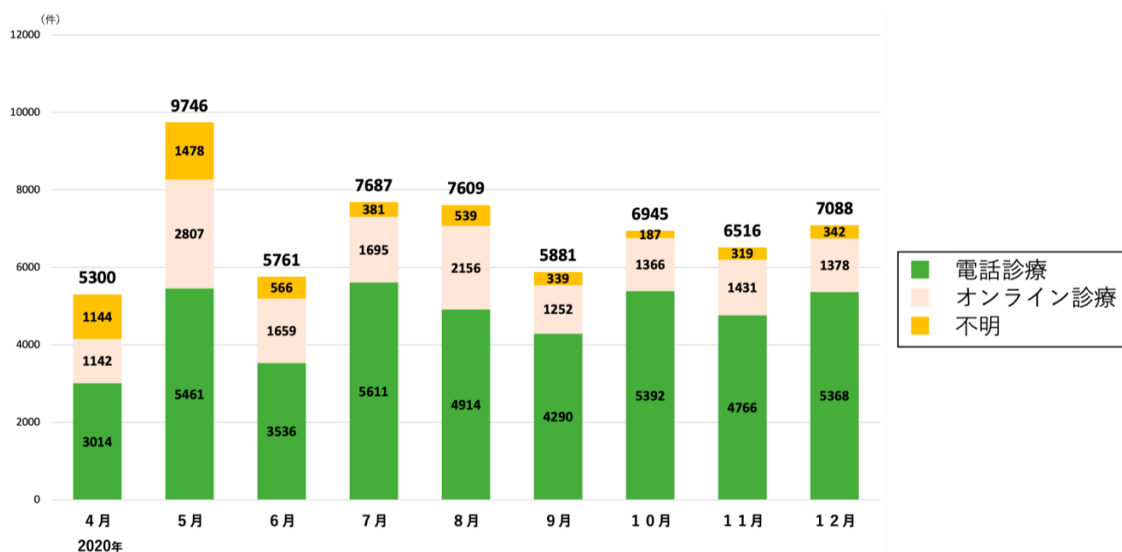


図3 初診からの電話およびオンライン診療の件数（電話・オンライン診療別）

出典：厚生労働省 「令和3年度版 厚生労働白書「新型コロナウイルス感染症と社会保障」 令和3年7月公表
 ＊出題の都合上、部分的に省略・改変し図を作成してある。

問3 新型コロナウイルス感染症の流行以前から、過疎地医療での医療提供継続のため、または患者の通院負担の軽減を図るため、電話・オンライン診療の普及が検討されてきた。2021年1月には国内の医療機関の内15.1%が電話・オンライン診療を実施できると登録しているが、依然普及したとは言い難い。

また、対面診療に代わる電話・オンライン診療は、普段からの健康状態を知っているかかりつけ医へ相談することが望ましいとされている。しかし、図1に示されるように、若年層を始め、かかりつけ医を持たない人の割合は大きい。

今後、電話・オンライン診療を普及させるためにどのような取り組みが必要となるか、理由とともにあなたの意見を述べなさい。なお、解答は400字以内にまとめなさい。

